



あおいち

古代山陰道ウォーク



平成30年9月2日（日）

古代官道とは？

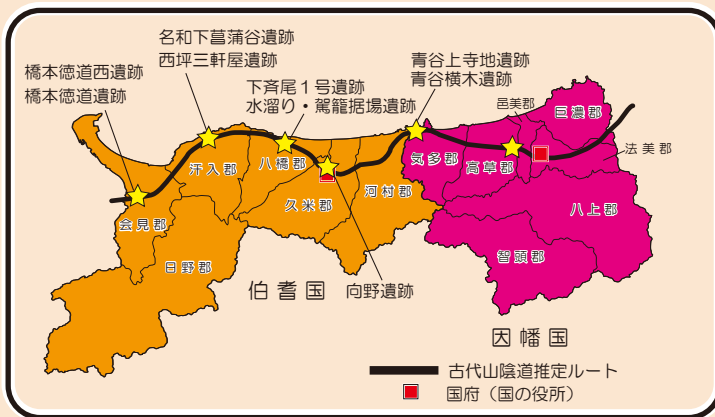
古代官道とは、律令国家が整備した道路の総称で、^{えきろ} 駅路（都と国府を結ぶ道）と伝路（国府を郡衙（郡役所）を結ぶ道）とがありました。

「七道駅路」とも呼ばれた駅路は、情報伝達のために全国に張り巡らされ、重要度に応じて大路・中路・小路に分けられました。山陰道は北陸道や南海道などとも小路に含まれます。駅路は目的地に最短距離で到達するように真っすぐにつくられたために、現代の高速道路のルートと重なって発見されることがよくあります。



古代の交通路

鳥取県の古代官道



鳥取県内で発見された主な古代官道

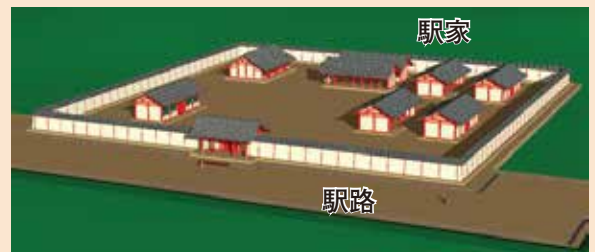


琴浦町下斉尾1号遺跡の道路跡(道幅9m)

鳥取県では11遺跡で古代官道と考えられる道路跡が見つかっています。これらの調査成果から、駅路である古代山陰道は幅9mもの広い道幅を有し、側溝も備えていたことが判明しています。また、切土工法（オープンカット）や盛土工法など多様な土木技術が駆使され、大規模かつ直線的な道路がつけられたことも明らかとなっています。

うまや 駅家とは？

駅家は駅路の30里（16km）ごとに置かれていました。当時の乗り物は馬であったことから、^{えきし} 駅使と呼ばれる使者は駅家に準備された^{えきば} 駅馬を乗り継いで情報を迅速に伝達しました。因幡国には4駅が置かれ、駅馬が8匹ずつ準備されていました。青谷地域には柏尾駅家が置かれたという説もあります。発掘調査では、湯梨浜町石脇第3遺跡で伯耆国の^{いしわき} 「苅賀駅家」に関連する建物跡が見つかっています。



山陽道の布勢駅家（播磨国・兵庫県）のイメージ図
（提供:北海道教育大学教授中村太一）

山陽道の駅家は役所や古代寺院と同じく瓦を葺いた格式のある建物が建っていたと考えられています。



鳥取県埋蔵文化財センター

〒680-0151 鳥取市国府町宮下1260番地

TEL 0857-27-6711

FAX 0857-27-6712

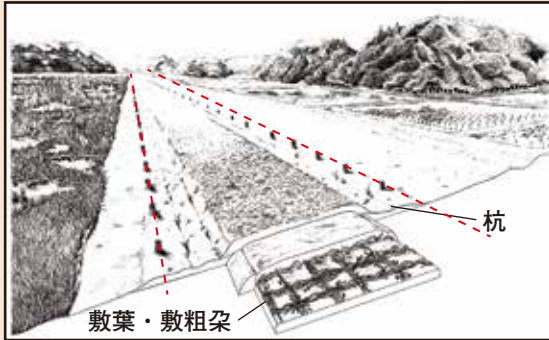
ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/maibun>

フェイスブック www.facebook.com/tottorimaibun

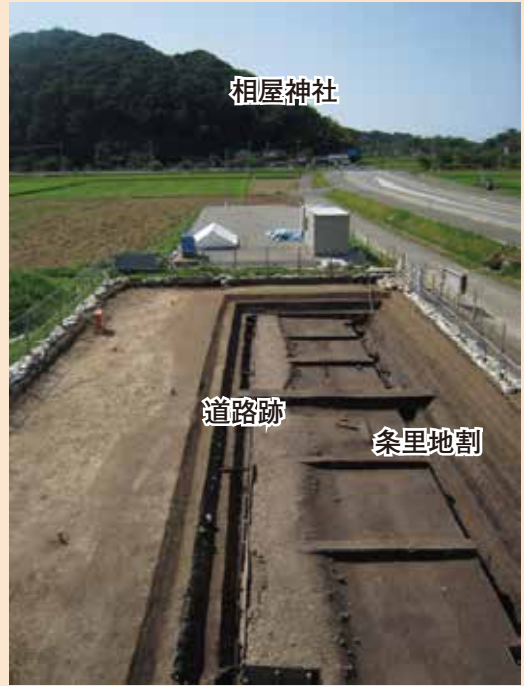
あおやかみじち

ポイント1 青谷上寺地遺跡

国史跡青谷上寺地遺跡では、古代山陰道ともに条里地割を示す盛土遺構がセットで確認されています。道路は、低湿地に盛土で築かれ、盛土の裾では建設の際に基準線となった杭列も見つかっています。また、盛土内に枝や葉を敷き詰める『敷葉・敷粗朶しきそだ工法』が用いられていたことが判明しています。この工法は当時、朝鮮半島から伝来した最先端の土木技術で、官道などの国家的事業に用いられました。



青谷上寺地遺跡の古代山陰道復元イラスト



青谷上寺地遺跡の道路跡と条里遺構 (南東から撮影)

よしたぼうじがさき

ポイント2 善田傍示ヶ崎遺跡と道路地割

善田傍示ヶ崎遺跡は青谷上寺地遺跡で見つかった道路跡の延長線上に位置しています。人形や馬形をはじめとする木製祭祀具（お祓い道具）が多量に出土した祭祀遺跡です。

道路跡は見つかりませんが、遺跡に隣接する南側には、幅17mの道路敷の可能性のある地割が現在も残っています。



道路敷の可能性のある地割 (南東から撮影)

あおやよこぎ

ポイント3 青谷横木遺跡

青谷横木遺跡では山裾に沿って道幅6～7mの大規模な道路跡が見つかっています。道路は飛鳥時代の7世紀終わりごろに建設され改修を繰り返しながら約400年間にわたり使われ続けました。

道路側溝の外側に築かれた盛土（道路外盛土）からは樹木根が並んで発見され、柳の街路樹であったことが明らかとなっています。都大路などでは文献や和歌から柳や槐が街路樹として植えられたことが知られていますが、発掘調査



青谷横木遺跡の古代山陰道復元イラスト



青谷横木遺跡の道路跡 (北西から撮影)

で実際に見つかったのは国内で初めてです。青谷横木遺跡では木簡や木製祭祀具なども大量に出土し、飛鳥時代の女子群像が描かれた板絵は、国宝高松塚古墳に次ぐ国内二例目の発見として注目されています。

あごやま
ポイント4 阿古山22号墳 船の線刻壁画古墳



阿古山22号墳石室 (南西から撮影)



阿古山22号墳
船の線刻壁画

阿古山22号墳は長尾鼻に続く丘陵の山裾に造られた古墳時代終わりごろの古墳です。周辺で産出する安山岩を利用し、巨大な横穴式石室がつけられています。石室には線刻により船団や星などが描かれています。

船の線刻壁画は勝部川流域の吉川43号墳でも見つかり、古墳時代においても海上交通や港を掌握し日本海を舞台に活躍した豪族が青谷の地にいた可能性があります。

かめいなわて
ポイント5 亀井罫 亀井茲矩がつくった近世の道路跡

亀井罫は戦国時代から江戸時代初期にかけて鹿野城主であった亀井茲矩かめいこれのりがつくったとされる道路跡です。亀井茲矩は「琉球守」「台州守」を名乗るほど海外志向が強く、積極的に朱印船貿易を行った大名でした。その朱印船貿易の窓口となったのが青谷あしざき(芦崎)の港であり、亀井罫は鹿野城から港へ行くためにつくられたとも言われています。その一方で、亀井茲矩が養郷周辺の新田開発を指示した古文書が残っており、亀井罫は新田開発のために使われた道路で、土地区画を行う際の基準線になった可能性もあります。



江戸時代の絵図に示された亀井罫



亀井罫 (北から撮影)

古代山陰道発見プロジェクト



鳥取県埋蔵文化財センターでは現在、古代山陰道を研究テーマの一つに掲げ、日々、調査研究に取り組んでいます。

現在、青谷平野の西側丘陵において踏査を行っており、標高90mほどの丘陵尾根上で大規模な切通しを確認しています。同じような切通しは同じく古代山陰道が発見された出雲市の杉沢遺跡すぎさわ(国史跡)でも見つかり、古代道路の痕跡をとどめている可能性もあります。

今後は、さらに西側の伯耆国との国境付近を踏査予定です。



青谷平野における古代山陰道推定ルート